

◆授業のポイント◆

- ① 説明的な文章を正確に解釈するために必要な知識・技能の系統化

② 文章の構成における関係性を考えさせる指導の工夫

第3学年 国語科学習指導案

学 級 3年2組(男子18名 女子16名 計34名)
場 所 3年3組教室 (3年校舎 2階)
指導者 教 諭 戸 川 浩 介

1 単元名

『文殊の知恵』の時代』を読んで批評しよう

～文章の論理の展開の仕方を捉え、内容の理解に役立てる～

教材名『文殊の知恵』の時代』

2 単元について

本単元では、説明的な文章である教材『文殊の知恵』の時代』を批評する学習を行う。筆者は価値観が多様化・複雑化している現代社会においては他者と協力し、互いの知恵や経験、価値観を結びつけながらすばらしい知恵を生み出していく「文殊の知恵」が必要であると主張する。その主張をわかりやすく伝えるために筆者はどのような工夫をしているか、段落相互の関係を分析し、論理の展開の仕方を捉えさせる。次に、その論理の展開の仕方について批評する学習を行う。本教材は前半で「文殊の知恵」を生み出す力を一般的に説き、後半は「文殊の知恵」の活用法を事例に即して具体的に説明している。その構成の意図について自分の考えをもたせることで、文章を評価しながら読む力を高めさせたい。これらの学習活動を通して、論理的な思考力・判断力・表現力を育成することができると思う。

本学級の生徒は、学習に意欲的に取り組み、与えられた課題に対して積極的に考えようとする姿勢が見られる。一方、意見を述べる際、その根拠が不確かで客観性に乏しいことも少なくない。そのため、他者との交流を通して互いの考えを広げたり深めたりすることができているとはいえない。そこで、本単元では今までに習得した言語事項等に関する知識・技能を根拠に論理の展開の仕方を考え意見を交流させることにより、文章への理解を相互に深めさせることができると思う。

指導にあたっては、論理の展開の仕方を的確に捉えさせるためにコンセプト・マッピング法を取り入れる。これは自らが読み取った中心的な要素を相互に関連付けながら図化するものである。まず、今までに習得した知識・技能の一覧表から中心的な要素を抜き出すために必要なものを選択させる。次に、中心的な要素を相互に関連付ける際も習得した知識・技能である段落の役割に基づいて関係性を整理させる。そして、それらを根拠に自らが作ったコンセプト・マップを他者に説明させたり、他者のものと比較しながらその適否を判断させたりすることにより、筆者の論理の展開の仕方をより正確に理解させたい。さらに、それらを批評させることで書き手の意図を考えながら、文章を読む力を高めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 文章の構成にしたがって筆者の主張を理解し、論理の展開の仕方について自分の考えをもとうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 段落相互の関係を図として表すことで、文章の論理の展開の仕方を捉えることができる。 (C イ)
- (3) 文章の構成や展開、表現の仕方の特徴を理解し、根拠をもって批評することができる。 (C ウ)
- (4) 文章の展開の中で慣用句や抽象的な言葉がもつ意味を捉えることができる。

4 単元の指導計画 (全7時間)

過程	活動のねらい	主な学習内容	時間	指導上の留意点
導入	- 単元の学習目標と学習計画を確認させ、学習への見通しをもたせる。 - 文章の構成を考えさせ、筆者の主張を捉えさせる。 - 初発の感想を書かせ、批評するという目的意識をもたせる。	1 単元の学習目標と学習計画を確認する。	1	- 電子黒板を用いながら批評の意味を理解させる。 - これまでに習得した知識・技能の一覧表からコンセプト・マップ作成のために活用できるものを選択させる。 - 辞書を活用し「文殊の知恵」の意味を捉えさせた上で、題名から筆者の主張を予測させる。 - 教師による範読を行う。 - これまでに習得した「序論」「本論」「結論」の構成を確認させる。 - 結論から筆者の主張を確認し、予測との比較を行わせる。 - わかりやすかったところ、わかりにくかったところを挙げさせる。 - キーワード・キーセンテンスの捉え方を電子黒板で確認させる。
		2 抽象的な概念を表す語句について意味を確認する。		
		3 本文を読む。		
		4 説明的文章の基本的な型(三段構成)を想起し、全体を三つに分ける。		
展開	コンセプト・マップを作らせることにより、段落相互の関係を捉えさせる。	5 初発の感想を書く。	1	キーワード・キーセンテンスの捉え方を電子黒板で確認させる。
		6 段落における中心的な要素を考える。		
		7 本論の内容を二つに分ける。		
		8 前半部でコンセプト・マップを作る。		
		9 前半部について個で考えたコンセプト・マップをグループで練り上げ、全体で確認する。	1	- 問題提起の文を手がかりとさせる。 - 中心的な要素を付箋にまとめさせる。 - 教科書資料編を活用させ、段落の役割を確認させた上で関係性を考えさせる。
		10 前半部の段落相互の関係についてまとめる。	1	- 接続する語句(また、そのうえ)に着目させ、並立・累加の関係を捉えさせる。 - 段落構成を指示する。
		11 後半部でコンセプト・マップを作る。	1	前半部のコンセプト・マップ作りの手順を確認させる。

		12 後半部について個で考えたコンセプト・マップをグループで練り上げ、全体で確認する。 13 後半部の段落相互の関係についてまとめる。	1 (本時)	「文殊の知恵」を身につけるための3つの方法に「走れメロス」を読んだ筆者自身の感想が具体例として対応することを「相手」「自分」「みんな」という言葉に着目させ、理解させる。 - 段落構成を指示する。
まとめ	文章全体のコンセプト・マップを基に、筆者の論理の展開の仕方について自分の考えをもたせる。	14 具体例の効果について考える。	1	具体例の特徴についてグループで考えさせた上で文章化させる。
	学習を通じて学んだことをまとめさせ、振り返らせる。	15 『文殊の知恵』の時代」を批評する。 16 お互いの批評を交流し合う。	1	- 電子黒板を用い、批評に用いられる言葉を理解させる。 - モデル文を使い、批評の型を理解させる。 - 共通点、相違点を考えさせ、気づいたことをまとめさせる。

5 評価規準

次に挙げる評価規準に従って重点的に指導する。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
文章の構成にしたがって筆者の主張を理解し、論理の展開の仕方について自分の考えをもとうとしている。(国語への関心・意欲・態度)	- 段落における中心的な要素を抜き出し、段落相互を関係付けながら図として示すことで、文章の論理の展開の仕方を捉えている。(C イ) - 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠をもって批評している。(C ウ)	文章の展開の中で『文殊の知恵』の時代」という抽象的な言葉のもつ意味を捉えている。(第2学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (イ))

6 本時の実際 (5 / 7)

(1) 学習目標

- コンセプト・マップに基づいて、後半部の段落相互の関係をまとめることができる。

(2) 目標行動

- 後半部の段落相互の関係を、例えば次のような言葉でまとめることができる。

後半部では「文殊の知恵」を生み出す力を身につける方法を『走れメロス』を題材にして説明している。まず⑭⑮段落で「相手に質問すること」、「自分の感想について改めて考えること」、「みんなで考えること」という3つの方法を説明している。

次に、⑯～⑲段落で筆者自身の感想を⑭⑮段落で示した方法の事例として挙げている。

さらに、⑳段落で名作という評価について考えることを説明している。

最後に、㉑段落で本を読んで「文殊の知恵」を生み出す作業について考察している。

(3) 下位目標行動

- 自ら作成したコンセプト・マップを他者と比較し、適否について話し合うことができる。
- 話し合いを通して、筆者の意見と挙げている具体例を対応させたコンセプト・マップを作ることができる。
- 後半部の段落相互の関係についてまとめることができる。

(4) 授業設計の工夫

- 説明的な文章を正確に解釈するために必要な知識・技能の系統化
中心的な要素の捉え方や段落の役割については既習事項の一覧表を基にポイントを振り返らせる。段落ごとの中心的な要素については接続詞や文末表現を手がかりとさせるだけでなく、主張に結びつく要素として考えさせる。
- 文章の構造における関係性を考えさせる指導の工夫
⑭⑮段落は筆者の示す方法がいくつあるか、という問いにより複数の要素を挙げさせる。特に⑯～⑲段落の筆者自身の「走れメロス」に対する感想部分では疑問の形に着目して要素を取り上げさせる。⑯～⑲段落の言葉と⑭⑮段落の言葉の重なりに着目させ、関係を考えさせる。

(5) 展 開

過程	主な学習活動	時間/形態	指導上の留意点 ◎は評価 ※思考の過程が見える工夫
導入	1 前時の学習内容を想起する。	5分 一斉	・ 電子黒板で批評という活動を再確認し、前時の学習内容と全体の学習計画を確認させる。 ・ 後半部を確認させ、音読させる。 ・ 学習目標を提示するとともに、学習の流れを明確にする。 ① グループで話し合いコンセプト・マップを作る。 ② グループで話し合ったものを全体で説明する。 ③ 後半部の段落相互の関係をまとめる。
	2 学習目標を確認し、学習の流れを確認する。 コンセプト・マップを使って段落相互の関係をまとめよう。	3分 一斉	
展開	3 グループで話し合いコンセプト・マップを作り上げる。	15分 グループ	・ 個で作ったコンセプト・マップを比較させ、互いに根拠を説明し合いながら、リーダーを中心にグループでコンセプト・マップを作り上げさせる。 ※ ホワイトボードを用い、判断の根拠を書き込ませる。 ・ 発表、補助に役割を分担させる。 ・ 2グループを比較させる。 ・ 個で作ったものと比較させる。 ◎ 違いを比較し、よりの確な段落相互の関係に気づくことができたか。 ① 文殊の知恵を生み出すための力を身につける方法を3つ捉え、並列的に捉えている。 ② ⑯～⑲段落でそれぞれの事例を対応させている。
	4 グループで考えたコンセプト・マップについて全体で発表する。	10分 一斉 ↓ 5分 個	

	5 後半部の段落相互の関係をまとめる。	10分 個 ↓ 一斉	- 書き出しの言葉と段落構成を指示する。 ◎ 後半部の段落相互の関係をまとめることができたか。 - 数人発表させ、生徒の言葉でまとめを行う。
終 末	6 本時のまとめをし、次時への意欲をもつ。	2分 一斉	批評の言葉を再度確認する。